

令和５年度 第２回飛騨市総合政策審議会 議事録

【日 時】 令和５年 10 月 12 日（木） 13 時 00 分～16 時 00 分

【場 所】 飛騨市役所 西庁舎 3 階 大会議室

【出席委員】 18 名中 15 名

【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 渡邊会計管理者 谷尻総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 堀田消防長 佐藤病院事務局長 野村教育委員会事務局長
岡田議会事務局長 大庭河合振興事務所長 平田宮川振興事務所長
三井神岡振興事務所長 上畑財政課長
(18 名)

【事務局】 森田企画部長 田中総合政策課長 下通課長補佐 井口主査 田ノ下主事（5 名）

【傍 聴 者】 4 名

【会 次 第】 1. 開会

2. 市長挨拶

3. 会長挨拶

4. 協議事項

①令和５年度 9 月議会で予算議決済の施策について …… 資料①・②

②令和 6 年度の施策（案）について …… 資料③・④

③自由討議

5. その他

今後のスケジュール …… 資料⑤

6. 閉会

【議事内容】

1. 開会【森田企画部長】

令和５年度第２回飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は 3 名がご都合により欠席であるが、委員 18 名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第 6 条の規定により定足数に達していることを報告する。

2. 市長挨拶【都竹市長】

今年度第 2 回となる総合政策審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。

総合政策審議会は年に 4 回決まった時期に開催することとしており、今回は 2 回目となる。10 月の開催としているのは、この時期、来年度に向けた政策協議に入っており、各部の政策の柱立てを委員の皆様にご覧いただいて、足りない部分や更に推進していく部分についてご意見を賜り政策へ反映させるためである。12 月末になると、概ね来年度政策の形ができあがってしまうため、今回の審議会がご

意見を政策へ反映させる最後の機会となる。ぜひ忌憚のないご意見を賜りたく思う。後ほど9月議会で議決いただいた予算の説明もある。その中で現在も続いている物価高騰への対策については、自身の力ではどうにもならない部分へ支援を打つ形になっていくかと思う。国の追加経済対策も注視しつつ、来年度予算協議と並行して検討を進めていきたい。また、物価高騰に併せて人件費が上がるということも問題になっている。飛騨市職員の場合、国の人事院の勧告により給与が決まるが、約30年ぶりの大幅な上げ幅となっている状況であり、会計年度任用職員分だけでも来年度は1億6千万円ほどの人件費の増額見込みとなっている。そのため、国からの地方交付税が十分でないと大変な打撃を被ることが予想され、現状のままだと飛騨市の来年度予算編成を十分に見通せなくなってしまう。そういった状況もあり、財政の見通しが立っていない中で検討を進めていかざるをえないことになるが、それをお含みおきいただいた上で議論していただきたく思う。おそらく国が全く手当をしないということはないと考えているが、どの程度の支援になるのかは推測しかねるため、慎重な見方の中で検討を進めているということもご認識賜りたい。政策協議が進行している中で、特に持続可能ということをテーマにしている。市役所でも人材を採用しにくくなっている中、少ない職員数でどのように仕事を遂行していくかということ大きなテーマとして掲げ、アウトソーシングの考え方や人が少なくても遂行できるような形へ変えていくためのDX導入も積極的に検討している。様々な部分で転換期であるということを実感する来年度予算編成となるが、引き続き市民生活をしっかりと守っていく取組や、弱い立場の人たちを支援し活力につながる取組をしていくことを念頭に置きながら政策を考えていきたい。委員の皆様からもぜひ忌憚のないご意見・ご提案をいただきたく思うのでお願い申し上げます。

3. 会長挨拶【会長】

先日、自身の還暦を記念した岐阜まちづくりシンポジウムが開催され、その中で都竹市長にご講演いただいた。講演の感想として、飛騨市学園構想のことや、学びからまちづくり、まちづくりから学びに繋がっていることも含めて、飛騨市は素敵な政策をやっていてとてもうらやましいという声が多く聞かれた。総合政策審議会で委員の皆様と共に議論したものが素敵な政策として世間に見られているということで、今後も飛騨市が良くなるようこの審議会で議論を進めていければと思う。本日はよろしくお願い申し上げます。

4. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和5年度9月議会で予算議決済の施策について、事務局の説明を求める。

【下通補佐】 協議事項①について説明。(資料①・②)

【会長】 協議事項①について、ご意見ご質問をいただきたい。

【A委員】 低所得者層に対する灯油券の交付や、いきいき券の追加交付について、物価高で緊

急的に実施いただくということで大変ありがたく思う。物価高騰は、おそらく今後もずっと続いていくと想定されるが、その場合こういった支援を想定しているか伺いたい。

【都竹市長】 物価高騰に伴い、年金のスライドや給与水準が上がってくると思われるので、世の中としてはそういった調整で対処していく形になると思われる。そこで上がらなかった部分や支援の手が大幅に遅れてしまっている部分を見極めて対策を打つことを検討していくが、こういった大きな変動への対策は国・県も含めて基本的にどこかで支援を終える必要が出てくる。市としては、電気代・ガソリン代など国からの支援の入り方を注視しながら、最終的に判断していきたい。

【D委員】 今年度9月まで行っていた物価高騰対策支援については10月以降も継続していただけるのか伺いたい。

【森田部長】 市としては、国や県が打ち出してくる政策を鑑み、そこで足りない部分を補うという姿勢であるため、継続するものもあれば、期限を設定して対策を打つものもある。

【都竹市長】 医療機関や社会福祉施設等の光熱費高騰支援は、9月分までと記載しているが、今後の光熱費の動向や、国・県が支援するという可能性があることを鑑みて9月としている。光熱費高騰の情勢が全く変わらず、支援が全くないという状況になれば支援継続を検討する。例えば、医療機関でいうと、現在、診療報酬改定の議論が非常に行われており、物価高騰や人件費高騰に対する診療報酬への反映をしていくという方向性になっている。もし、来年度4月から診療報酬へ反映されるのであれば、そこに対しての市独自の支援は必要なくなるため、支援を終了ということになる。

【F委員】 AEDの屋外設置推進は非常にありがたく良いことだと思う。防災士の会議でも、建物の中にAEDを設置したものの休館日で利用できないという意見が多数あった。屋外に設置することについて、機械の関係上、温度環境や盗難防止なども検討していく必要があると思うが、どのように対応されるか伺いたい。

【谷尻部長】 高山市が先行してAEDの屋外設置に取り組んでいるが、精密機器ということで温度管理が可能で雨ざらしにならない場所に設置したり、ボックスを用意したりする必要があると聞いている。設置場所に関しては事前によく検討して設置していく。盗難については、鍵がないため確かに心配な部分はある。ただ、AEDにはすべてシリアルナンバーが付与されており、転売された場合はすぐにわかるようになっているためか、これまで盗難は発生していないと聞いている。

【J委員】 障がい者等の地域共生、交流拠点についてはとても良い取り組みだと思う。この取り組みを広く周知していただきたいと思うが、何かネーミングは決まっているのか。

- 【藤井部長】 ネーミングについては、現在まだ決定していない。オープンは11月下旬頃ということで進めている。
- 【M委員】 物価高騰対策の支援については、国県の動きもあると思うが事前に察知して先回り準備していただけるとありがたい。今後は物の価値というものが、お金よりも物、物よりも人に移り変わってくると予想される。例えば、飛騨市にこんなものがあるから観光客が訪れるという流れから、〇〇さんがいるから観光客が訪れるという流れに変わってくるのではないか。そのため、物価高騰対策と併せて、人への教育やスキルアップにもお金を投入していただきたい。
- 【会長】 協議事項②令和6年度の施策（案）について、事務局の説明を求める。
- 【下通補佐】 協議事項②について説明。（資料③・④）
- 【会長】 協議事項②について、ご意見ご質問をいただきたい。
- 【M委員】 来年度施策案を見たところ、市民サービス向上に向けたDX推進ということで、公共交通へのバスアナウンス及び位置情報提供サービスの導入や、窓口DX S a a S導入による書かない窓口の実現などを検討とのこと。どの程度進める計画なのか。
- 【谷尻部長】 例えば、証明書等のコンビニ交付は今年度8月から導入開始した。市民の利用促進のため、コンビニで交付を受けた場合、市役所で交付を受けるよりも手数料を割り引くなど優遇し、多くの市民にコンビニへ行っていただけるような仕組みとした。コンビニ交付が増えることで、窓口業務に従事する職員の負担が減り、他の業務に時間を割くことができるようになる。
- 【M委員】 各種証明書の交付手数料の支払いについて、現在はE d y とさるばるコインでの決済が可能だが、今後他の電子マネーでも決済ができるよう拡充するつもりはあるか。
- 【谷尻部長】 新しい電子マネーを使えるようにするには、ソフト面・ハード面を整備する必要があり、その費用がどの程度で、どの程度市民のニーズがあるか含め判断する必要がある。
- 【M委員】 市民のニーズというよりは、設置してあるから使うという場合が大半ではないだろうか。設置すれば普及されていくと思うため積極的にお願いしたい。
- 【M委員】 古川町内における屋内運動場整備について、冬期間に利用できる屋内の人工芝の会場がないことが課題だと思っている。子ども用のバスケットコート1面分でもいいので、屋内で使える人工芝の会場ができれば、子どもたちが冬にスポーツできる環境が整うのでは。屋内の土の会場も人工芝を敷いていただきたい。
- 【野村事務局長】 森林公園に設置を予定している屋内運動場の舗装を人工芝で行うという考えがあ

る。

～休憩～

- 【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題、市に足りていない部分など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場や一個人のご意見を一人ずつ頂戴したい。
- 【A委員】 今年の夏における区内の高齢者の状況を共有したい。今年の夏は、特に単身高齢者にとっては直接的な暑さと物価高が重なり非常に辛い夏となった。相当暑い日が続いたため、気になって何人かの単身高齢者のもとを訪問したところ、体調に問題はないとのことだったが玄関まで這って来られた方もいた。暑いのに無理して我慢をしてエアコンをつけない方もみられ、心配だったため町内の方に単身高齢者や高齢者世帯のことを気にかけてもらうようにした。結果として特に何もなかったが、何らかの形で今後も見守る必要があると考えている。行政区は見守りをし、市には経済的支援をしていただくという両輪でやっていければよいと思う。
消防団員について、団員になってくれる方がかなり少ない現状があるが、理想的な消防団員の数を教えていただきたい。
- 【B委員】 来年度事業の政策について、持続的な市役所づくりを1つのテーマとして様々な施策を掲げているように見える。来年度は合併20周年となるため、これを機にぜひ職場としても魅力のある飛騨市役所を実現いただきたく思う。
解決の難しい耕作放棄地対策や、食・農・観光がタイアップした様々な事業など、どのような内容になるか期待している。
宮川町については、トンネルの開通により、宮川富山間の道路でスピードを出す車輛が多くみられるようになったことと路上へのごみのポイ捨てが増えたことが課題と考えている。交通安全協会に携わっていることもあり、来年度はスピードを出しすぎてしまう状況を何とかしなければならないと考えている。飛騨警察署と連携して、例えば移動式のオービスを設置するなど、何かスピード抑制につながる措置を施さなければ大変な事故になる可能性もあるのではと危惧している。交通安全対策協議会にも協力を依頼させていただくことがあるかと思うが、よろしくお願い申し上げます。
- 【C委員】 来年度施策を拝見し、人口減少先進地であるということが一番のポイントになると思った。効果的な施策を打つのはなかなか難しい問題ではあると思う中で、様々な分野に対策を張り巡らせることも大切だが、優先順位を決めて取り組むことを少数に絞っても良いのではないかと考えている。先日ニュースを見ていると、福井市の児童館で子どもたちが遊んでいるものがあつた。福井市は全国でも幸福度がトップクラスの市ということで、子どもたちもインタビューで福井市がとても好きだと答えていたことが強く印象に残っている。飛騨市でも少子化という問題を考えた際に、

児童が集まれるような施設の充実が大切だと考えている。関係人口ということで、一時的に飛騨市にみえる方はいるが、継続的な人口減少対策としては、子どものうちから施設を含めた教育を充実させていくことが大切ではないか。自身も後期高齢者の身ではあるが、高齢者よりも次の世代を担う子どもたちにもっと目を向けた施策に力を入れることが、今後の飛騨市の発展につながっていくと思う。

【D 委員】

県内で進んでいない帯状疱疹のワクチン接種について、補助をしていただき感謝申し上げます。おたふくのワクチンは任意接種となっているが、おたふくに罹ると不妊・感音性難聴など後遺症が残ってしまう可能性がある。今はおたふくのワクチン接種にかかる費用を半額補助していただいているが、それでも金額で躊躇する方もみえると思うため、補助率の再検討を行っていただけるとありがたい。

飛騨市は市民中心で様々取り組んでいただいている中で、実働の飛騨市職員を大切にしなければならないと思っている。給与面や負担の軽減を考え、デジタル化を推進していきたいがコストがかかるということではなかなか進まないことがあると聞いた。コストがかかっても、市民サービスが改善されるような要望があるならば積極的に進めていただきたい。

【E 委員】

保護者の方から集めたご意見を共有する。保育園について、未満児を含む兄弟の場合は定員の関係もあるかと思うが、園が違くと送迎の負担などが増えるため出来る限り兄弟で同じ保育園に通いたいという要望があった。また、1歳児で通っていた保育園と2歳児で通っていた保育園が希望通り入れず違う園になった後に、年少で元の保育園に戻るといふこともあるようで、様々基準があり大変なことは承知しているがご配慮いただきたい。

道路の整備について、街中の無電柱化に取り組んでいただいているが、それよりも街灯の設置や車通りの多い道の歩道への歩道信号の設置、通学路の整備をしてほしいという意見があった。具体的には、古川町の是重のセブンイレブン前の横断歩道に押しボタン式の信号設置の要望や、帰宅時間の安全確保のため上町の通学路へ街灯設置の要望など。また、側溝の水路は子どもが落ちて怪我をする可能性があるため、対策までに時間がかかるのは分かるが何かあってからでは遅いため早めに対策していただきたいと思う。

【F 委員】

AEDの屋外設置について要望が通ったことに安心した。防災備蓄倉庫の点検業務委託を市から受け、9月に1回目の点検を実施したところである。年度内に2回目の点検を実施する予定だが、神岡町の分については作業する人手と倉庫の数が合っておらず苦勞している。

防災士会の各支部から事業計画が提出されてきており、その中から、独居高齢者宅の家具の固定をPRも兼ねて無料でやっていきたいと考えている。これにあたり、家具の固定に関するノウハウや建築について見識を深めるため、関係機関と様々な意見交換をさせていただいた。初めてのことで、市役所各部署や様々な機関と連

携しながら実施していきたい。

自身は細々と農業をやっているが、高齢化が進み、もう自分では田を耕作できない人が増えてきている。作業受託を受けるにも負担が増えている状況であるため、水田経営を受託する生産者への支援について教えていただきたい。

【G委員】

先日、市の担当課長から道の駅に観光客が良く入ってくれているが、PR 不足のためか街中への流入につながらない課題があると聞いた。これについて、市内の観光施設のプロモーションビデオを作成し、道の駅で流せないか道の駅の方とも話し合いをしたので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思う。

ひきこもり等の方たちへ向けた就業までのサポートについて、私は新聞屋を営んでおり、新聞配達をひきこもりだった子がやってくれて大変助かった。新聞配達は、人に合わず自分のペースで仕事ができるため、引きこもりの子にはいいのではないだろうか。まだ人手は足りないので、ひきこもりで働いてみたいという子がいればぜひ紹介していただけると非常にありがたい。新聞屋に限らず、人と接する必要のない形態の事業所と引きこもり等の支援団体が何かリンクできるようなことがあるとお互いにとって良くなるのではと思う。

クマが最近頻繁に目撃されている。相手は言葉の通じない動物であるため、対策というのは難しいかもしれないが、我々ができる対処法の講義をしていただければと思う。

【H委員】

物価高の一番の要因はおそらく、為替が円安に振れていること。今の市場の環境を考えると円安はしばらく続くと考えられ、飛騨市に限らず国内どこでも同じ状況となる。ただ、海外からの観光客からすると物価がとても安く観光に訪れやすい状況であるため、これをチャンスとし飛騨市を目的地とした観光客をより集めることが大切になってくる。海外からの観光客は円を現金で持ってくる方は少なく、電子決済やクレジットカード決済が主流である。そのため、決済端末の導入を市内事業者に対してもれなく広く普及させる必要がある。導入にはそこまで大きなコストはかからないと思われるため、世の中の流れがデジタル化・キャッシュレス化に向かっていることをうまく観光に取り込められるようにした方がよいと思う。

【I委員】

飛騨市学園構想の取組にもあるように、子どもたちが地域と関わる機会の創出ということで、特に古川中学校では、自分のやりたいことや得意なことを実施するマイプロ活動を通じて地域の方と関わることで、子どもたちの達成感や自己肯定感を高めることができている。

給食費について、物価高騰が続いている中で、現在は市が給食費の高騰分をみてくださっている状況であり非常に感謝している。しかし、先月の市議会の中の一般質問で、来年度からの給食費の分の値上げを検討していると答弁がされたと新聞で読んだ。仕方のないことだと思うが、物価高騰により子育て世代の生活も厳しい状況

は依然続いているため、もし値上げをするとしても保護者への負担が最小限となるようお願い申し上げます。

P T Aの役員となり、様々な会議に出席させていただくことが増えたが、市役所の管理職は男性が多いと感じた。働く女性の方は増えているが、管理職となるとまだ少ないように思う。もちろん、その人の希望や事情、資質や能力もあるため、一概に男性が多いから駄目ということではないが、単純な疑問として市役所の管理職の男女割合と、市として女性の社会進出や管理職登用について考えがあれば教えていただきたい。

【J 委員】

学校の施設設備について、特別教室にエアコンを導入いただいた。子どもたちは本当に快適に授業に参加できており、また、職員も特別教室で会議を行うなど、導入に対する効果が非常に高いと感じている。今年の猛暑で特に大変だったのが、体育館での活動。暑さ指数の関係で、原則運動禁止という日が何日もあり、体育館での集会も大変だった。体育館のような大型の施設に冷房を導入するのは難しいかもしれないが、市の避難所という側面もあるため今後の対応について教えていただきたい。職員室についても先生方はエアコンを上手く利用して仕事の効率を上げ、就業意欲も高まっているように見える。ただ、山之村小中学校はいまだにスポットクーラーなのでエアコンの導入をお願いしたく思う。

飛騨市には、県内で一番小さい小学校と、唯一の僻地三級地の小中学校があるが、どちらについても児童生徒の在籍数が減ってきていることが課題。これに対しては関係人口を増やししながら、移住につながればと考えている。山之村は、子どもたちが本当に一生懸命になって1人でも1家族でも維持してもらうための取組を実施しており、先月の来てみて山之村祭りでも一生懸命に山之村の良さを訴えかけていた。そんな中、現在保育園は休園状態であり、あと5年で小学生の在籍がなくなり、中学生のみの在籍となる。そうなった場合、中学校としては残していくのか教えていただきたい。基本的に中学校は複式学級というものはなく、教員の確保が大変であるため、今回のような場合は先に中学校が閉校して小学校が地域のコミュニケーションセンターとして残ることが多い。ただ、山之村についてはなんとか中学校を残しながら、5年の間に移住者で小学校をつないでいけなかと考えている。

【K 委員】

飛騨市はとても大きな森林面積をもっており、その中で広葉樹がたくさんあるため広葉樹事業を推進しているところ。様々な事業をやっていただくことは大変ありがたい。我々として最も心配していることは、隣地の境界線がはっきりしていないところが非常に多くあること。伐採植林は境界が明確でないと後々トラブルの原因となるため作業できないのが現状である。来年度、森林環境贈与税が多少増額されると聞いているため、可能であればそういった財源を活用してレーザーやI C T技術を活用して境界を明確にする取組を実施し、地籍調査の推進をしていただきたい。

【L委員】

尊敬する先輩から、「使える金の1割は次の新しいことに使え」とずっと言われており、今年から小麦の栽培を始めた。高山のなるせパンやトランブルーにて飛騨産小麦のパンの試作を現在進めてもらっているところである。

また、化学肥料の高騰もあり今は水稻と大豆を堆肥だけで栽培しているが、天候が良かったことも味方してか思いのほか収量があった。明日市長にも収穫の様子をご覧いただくことになっている。

昨晚の農業支援協議会では、市長にも参加いただき市の農業について協議を行った。今日の審議会でも委員の方から遊休農地や荒廃農地のお話が出てきたように、農家の減少や高齢化により農地を守り切ることが難しくなっているのが現状。農業支援協議会の時、営農を継続するのが難しいような農地は守らなくてもよいのではという市長の意見を聞いて、そういう考え方もあるのかと思った。実情として、昔山を切り開いて田んぼとしていた農地や獣害があまりにひどい農地については、もう専業農家で生業として耕作できるところではない。農家だけの問題ではなく、まちづくりとしての問題になってきている。市内の農地は、農家が既に守れるような状況ではないということを知っていただき、荒れてしまう農地があることもやむなしとご理解いただかなければならない時期に差し掛かったのだと思う。

【M委員】

先日、都竹市長をはじめ、高山市長、白川村長、また、富山県南西部の市長ならびに高山商工会議所などの経済団体の皆さまと東海北陸自動車道の4線化について国へ要望を出してきた。これが実現すると、東海方面や北陸方面からの飛騨圏域に流入する観光需要の利便性と安心安全性が更に向上する。こういった事業自体は即着手するものではないが、今後10年ほどを見越して、社会基盤整備の大型事業はタイミングを見計らって粘り強く要望する必要があると伺った。観光協会としてもこういった要望活動には引き続き協力させていただくのでよろしくお願い申し上げます。観光協会が飛騨古川まつり会館の指定管理を受けて4年となった。まつり会館は平成4年の開館以来、「さくら」効果がピークを迎えた平成14年がこれまでの最高入場者数となっている。令和3年度は新型コロナの影響から過去最低の入場者数となっていたが、令和4年と令和5年で復活傾向がみえてきた。まだコロナ禍前の7割程度の入場者数だが、最近は団体予約も増えてきた。飛騨市に要望したいのは、老朽化した施設のハード面の修繕費支援である。屋根瓦のズレや館内の空調設備、中央の太鼓や消防施設の修繕など多額の修繕費用がかかる見込み。これに加え、照明や水道設備、外の樹木の剪定など見直すべき部分が非常に多くある。来年度の予算編成に向けては、特に安全設備を中心に要望をさせていただきたいと思う。一市民としての要望は、杉崎のグラウンドに日陰のある休憩スペースを作ってほしいこと。また、海外へ営業に行く際に飛騨市を説明できる英語や中国語のプロモーションがないので、これから国際交流が進んでいくのを鑑みて作成いただきたいと思う。

【M委員】 民間の人が特区の中でタクシーのような役割をするライドシェアのニュースを見た。一朝一夕にできることではないが今後飛騨市でもライドシェアを検討できないだろうか。

図書館について、硬い内容の本が多いため、気軽に読める雑誌の種類を増やしてほしい。突拍子なことを言うかもしれないが、図書館にカフェを併設しゆっくりくつろぎながら本を読んだり、雑誌を読んだりトリフレッシュできる空間を作れないか。富山の本店ではドトールコーヒーが併設されている例もある。

市内の市外局番が 0578 と 0577 の 2 種類あることについて、合併前の経緯があるのでなかなか難しいかもしれないが 1 つにできないだろうか。

【会長】 市長からご意見を伺う。

【都竹市長】 A委員のお話について、単身高齢者に対する支援だけでなく、見守りも大切であり、そういった部分は市では手が回らないのでありがたい。細かく目を配って頂くことは非常にありがたいので、引き続きお願い申し上げたい。

消防団員の適正人数については、特にそういった基準があるわけではない。ただ、最近では団員の確保自体が難しくなっており、団員の数も減少してきている。今後、消防団として動ける人の絶対数が本格的に減っていく事が想定され、ますます団員確保が難しくなる。そういった状況であるため、少しでも消防団の存続の一助となるべく操法や処遇の見直しを実施している。しかし、そこを見直したからといって問題の根本的な解決にはならないので、団員の処遇改善や操法の見直しと並行して、現状より少ない人数で維持していくための持続的な消防団のあり方を、消防団としても検討していただく必要があると考えている。

B委員のお話で、富山ー宮川間の道路でスピードを出す車が多発している件については、トンネルが開通してから宮川町に住んでいる方から同様のことを聞くことが極端に増えた。また、併せて道路端に捨てられているゴミの数も増えたという声も聞いた。どちらも重要な問題であるため、警察と協議して、警察としてどういった意見を持っているか等も聞き取りながら、例えばオービスの設置などによりスピードの抑止を図っていきたいと思う。ゴミが増えている件については、ポイ捨てしないようにという呼びかけも必要だが、ゴミを捨てる場所の確保も必要かと思うので別途検討していきたい。

C委員からは子どもたちの集まれる環境・施設の整備についてお話をいただいたが、最近の子どもたちは友達同士集まって遊ぶということが少なくなっており、集まっても携帯ゲームで遊ぶくらいと聞いたことがある。子どもたちの集まり方の在り方について検討していく必要があると思う。親と休日遊びに行けるような施設が市内に足りないことはこれまでもずっと課題だと認識している。今後進んでいく駅東開発に伴い、例えば、全天候型の遊び場を民設民営で整備する計画が出てきており、市としては現状その動きを見守りつつ注視している状況である。

坂巻公園に水遊びが出来る場所を作ったり、神岡でスケートボードができる場所を設置したりと、今後も子どもたちが求めるものを整備していきたいと考えている。私自身、学校訪問で子どもたちの意見を聞くことがあり、先日は古川西小学校の児童と話した時、杉崎公園のリニューアル案をたくさん聞かせていただいた。こういった子どもたちの声を直接聞きながら、今後の公園の在り方や集まれる場所について考えていきたい。

D委員からのお話で、おたふくかぜのワクチン接種への補助についての補助率の再検討は、市民にとってどのくらいの負担感であれば接種していただけるかを想定しながら早速検討していきたい。D委員には産業医として、市職員の中でも労働時間の長い職員の話を通じて直接聞いていただいていることもあり、余計にご心配いただいているかと思う。市職員の時間外労働時間の削減については、パソコンが一定時間になると自動的に電源が落ちるようにしているなど、数字としては確かに減少傾向である。ただ、人によって時間外労働時間の偏りはある。また、市民の皆さまのお声に出来るだけ応えようとする、どうしても仕事量は増えてくる。そのため、市民の皆さまの要望に応える仕事をしつつ職員の負担軽減を図るためには、多少お金がかかっても任せられる仕事は民間へ任せていく必要があると強く思っている。来年度に向けた政策協議では、外注できる仕事は外部へ委託することと、デジタル化により負担軽減ができる部分はないかを徹底的に検討していきたい。

E委員のお話で、兄弟を含めた未満児を同一の保育園に入りたいという意見は、私も同意する。しかしながら、未満児保育については、多くの保育士を必要とするものであり、保育士を確保しきれていないため圏内の保育園で空きがあるところに入っているというのが実情である。出来る限りのことはさせていただきたいが、そういった事情があることはご理解賜りたく思う。

押しボタン式の信号や通学路・街頭整備の要望を挙げていただく機会については、PTA、警察、市で協議する場がある。要望をいただくことはありがたいので、ぜひお声を寄せていただきたいが、優先順位や当該区・地権者との調整もあり、市が予算をつけただけではどうにもならない場合も多々ある。まずは実態把握ということで、何か要望等があれば市担当者に話していただくようお願い申し上げます。

F委員からのお話について、防災士会の備蓄倉庫点検は非常にありがたく感じている。神岡は確かに防災士の数に対して備蓄倉庫が多い地域であるためご苦労が多いかと思う。負担軽減を含めた今後のやり方については市担当とよく相談をしていただきたい。独居高齢者の住宅の家具固定について、無料でやるということは本当に素晴らしい話だと思う。市としてもできる限りの支援を検討したい。

田の草刈りについてもお話があり、これはL委員への回答としてもお答えをさせていただく。自分が田を耕作できなくなった方が年々増えてきており、現在耕作している人に対して、10年後も耕作していますかとアンケート調査を行ったところ、10年後にはもうできない、やっていないだろうという回答が大半であった。それでも、

自分の田を所有している方は田を大事にしており、なんとか自分で続けたいと思っている人が多い。自分で精いっぱい耕作した後、もうこれ以上耕作するのは難しいとなった時に、営農組合や農業法人に預けて耕作をしてもらう形となっている。ただ、営農組合や農業法人も労力は有限であり預かれる農地にも限界がある。また、昔からの名残で、耕作ができない地主側が依頼して耕作者に耕作をしてもらっているのにも関わらず地主側が小作料を受け取っていたり、耕作のみならずボタや畔の草刈りまでセットで依頼されることが増えたり、受け手側の担い手農家の負担が非常に大きくなっている状況がある。このままでは持続可能な農業の実現は不可能であるため、昔の常識を今の常識へと見直し、例えば小作料は無しとし、草刈りをお願いするのであれば農家側に手数料を払うなど、一度飛騨市としてのスタンダードを確立していく必要があると考える。担い手農家も含め、どうすれば持続可能な農業の形にしていけるか、一度議論する場を設けたいと思っている。

耕作放棄地対策は、将来的には空き家対策のようなフェーズに移行し、移行した段階ではじめて税金を投入することへの是非を問うていくことになると思われる。非常に根深く、しかも喫緊の問題であるため、ここについてはしっかりと議論していきたい。

G委員からお話をいただいたが、確かに市の観光PR動画はないので、早速検討していきたい。新聞配達の仕事が引きこもりの方に向いているというのは初めて知ったが、適した仕事の掘り起こしはもっと実施しても良いと思った。フリースペースや、市の地域生活安全支援センターふらっとや総合福祉課の支援として、人に合った仕事の掘り起こしをできればと思う。

クマについては、昨日も街中でクマが出没したということで大変不安な方が多いと思う。今年度はクマの駆除を例年より多く実施しているが、駆除しても他の山から移ってくるため、ほぼ無限にいるという認識。やはり我々が自衛策を講じることが大切になってくる。何年か前はクマが出没した時に市民向けに緊急クマ対策の講演会を実施したことがあるが、毎年定期的にも実施してもよいと思う。クマ対策の配布物を用意し配るなど、様々な方法で周知していくことも検討していく。

H委員からは、物価高の原因は円安であるというお話を伺ったが、全くその通りだと思う。構造的に仕方ない問題ではあるので、逆手にとってチャンスと捉えてインバウンドの拡大を狙うという意味では、市としてもっとできることはあると思う。タッチレス決済は事業者によって意欲に濃淡があり、全くやるつもりがない方もいれば、積極的に取り組んでいるところもある。インバウンド対策の総点検を実施し、インバウンドの巨人地域である高山市からも話を聞きながら、来年度以降できることについて検討していきたい。

I委員からは給食費のお話をいただいたが、給食費を値上げしないと、基本的な栄養の基準を満たすことすら難しい状況である。値上げした分の支援を市としてどうするかというのが大きなテーマとなってくる。現在、所得の低い世帯に対しては支

援があるものの、中堅所得世帯については十分に支援策がない。ただ、中堅所得世帯の中で、どこで何を根拠に対象者・非対象者の線を引くか判断する線引きが非常に難しい。支援の方法としても、保護者の負担をなるべく減らすためには、給食費の値上げ分支援がいいのか、あるいは他の経費に対して支援をした方がいいのか答えを出すのが難しい状況であるため、来年度に向けた政策協議で内容を詰めていきたい。

J 委員からお話のあったエアコン設置については、学校訪問の際にも非常にありがたいという声を聞き、やってよかったと感じている。体育館のエアコン設置はまだ具体的に設置するということは決まっていないが、非常に経費がかかる事業であるため、まずは特別教室へのエアコン設置を仕上げた後に、次のテーマとしてやるべきことだと思っている。

山之村小中学校の件について、私自身は地元から要望が出ない限り、市から学校の統廃合の意思をみせることはないと考えている。教員配置の関係もあるため、後ほど教育長から説明いただく。

K 委員からお話のあった林地の境界線については、当然地籍調査をしていくが衛生写真を使ったりリモートセンシングで着実に進めていくしかない。全てを終えるには何百年もかかることが想定され、粘り強くやっていくことを前提に、まずは森林集約化できる部分をしっかりとやりつつ、デジタル技術を使いながら他の部分についても進めていきたい。

M 委員からお話のあった件について、まず、先日はトンネルの要望をいただき感謝を申し上げる。大きな事業は官民一体で要望することが大切であり、粘り強く要望しながらも莫大なコストがかかることから、まずは事業化までこぎつけるかが一つの山である。事業化できたとして、そこから次は事業の着手までどのように持っていくかがまた一つの山。例えば飛驒トンネルは以前工事して 10 年がかかっているため、今回の場合は 10 年以上かかることが想定される。今、我々が使っている道路も何十年前の人たちが粘り強く要望して事業化したからこそ存在している。去年開通した宮川の塩屋のトンネルも、昭和の終わりごろから宮川村長さんたちが粘り強く要望して完成までほぼ 30 年要したものであり、今から我々が要望していくものは、20 年 30 年後の人たちのためにやるという思いでやっていく必要がある。引き続きご協力をお願い申し上げる。

まつり会館の修繕は、至るところの修繕が必要のようにみえる。実は、飛驒市役所も無限に修繕箇所があり、各課から毎年上がっているものを絞りに絞り込んでそのうちのわずか 1 割未満しか着手できないような状況。今、公共施設管理基金を設けてなるべく修繕するための財源確保をしているが、それでもとても足りず、恐らく市の基金すべてをつぎ込んでも全ての箇所の修繕は不可能なぐらいの規模感である。まつり会館は観光客を呼ぶ中核であり、また、屋台という貴重な文化財を預かる施設であるため出来るだけ修繕していきたいが、その中でも優先順位をつけさせ

ていただくことはご了承願いたい。

杉崎グラウンドの人工芝の件については、J S Pというサッカーの会社からお話をいただいております。課題は把握している。全部掘ってやり直しの方法をとると約2億円はかかり、本事業を実施するだけで他の事業ができなくなってしまう可能性もある。今は新しい技術が様々出てきていると聞いており、現時点でどの方法が適しているか判断するため、専門家を呼び客観的な意見をもらう機会を設けたい。

杉崎グラウンドはもともと大会などで他地域から来ていただいた方に市内宿泊施設へ泊まってもらいたいという目的で作られた施設である。しかしながら、最近には泊まってもらう宿泊施設がない本末転倒の結果となっている。こうなると、グラウンドを整備したが、それに見合う投資が難しい問題となってくるため、やるとしても改めて目的はどうするかということも併せて検討していきたい。

海外向けの動画は確かにはないので、作成の検討をしたい。

【沖畑教育長】

C委員からの教育を充実させてほしいという件について、古川中学校のマイプロや、山之村小中学校の山之村まつりの取組、神岡中学校の金融クエストなど、それぞれの学校で特色ある教育活動が非常に盛んになっている。これらの取組は2つのポイントがあり、1つは学校内で完結するものではなく、地域の方々と一緒に取り組んでいること。2つ目は子どもたちが自らやりたいことを考え、こういうことを解決したい、こういうことをもっと深めたいという思いを大切にしたい取り組みであるということ。取組により子どもたちの主体性や自ら学びたいという意欲が近年非常に高まっており、全国学力テストの点数の向上につながっている。テストの中でも特に、意欲を測るような設問で高い点数をとっている生徒が多く、子どもたちの学ぶ意欲や実際に学んだ知識・思考力が様々なところに繋がっているように感じている。E委員からお話のあった通学に係る道路整備などについては、先ほど市長から説明があったが、PTAの方は本当によく要望をまとめてくださっているのがありがたい。実際、要望をいただいても簡単に動けるようなものばかりではないので、対応が遅いと言われてしまうのもやむなしであると思う。自身も、これだけ要望をいただいているのに、果たして本当に進んでいる事業はあるのだろうかと思っていた時もあったが、教育長に就任した6年目になると、毎年比べているとやはり進んでいる部分はあると感じている。個人のお宅や土地のこと、区の絡みなど対外的な関係もあるので進みが遅いこともあるが、着実に進んでいるものもあるのでご了承いただきたい。またご要望をお寄せいただきたく思う。

J委員からお話のあった山之村小中学校の件については、地元の皆さまはどう考えているのか話し合いを進めていきながら、子どもたちにとって一番よい方法となるよう考えていければと思う。また、図書館に雑誌を増やす件は、図書館と協議して検討していきたい。

【野村部長】

F委員からお話のあった来年度政策の水田委託生産者への支援内容について説明をさせていただく。水田を守っていくために、現在玄の子地区・杉崎地区で田の区画

拡大を順番に進めている。田を大きくすると、より大きな農業機械が必要となる。ただ、資材高騰の影響から、現在大型のコンバインの価格は約 2,000 万円と非常に高額となっており、こういった大規模に農地を担っていただく方を支援しなければ農業が立ち行かなくなってしまう段階に来ているため、今回の支援制度を創設した次第である。賃借料の関係や、農地に付随する水路や農道をどう管理していくかはこの秋冬に議論を進めていきたい。

【会長】

委員の皆様から多くのご意見を頂戴した。感謝申し上げます。

防災士の活動について、市は育成だけを担って後は放りっぱなしという場合が多い中、飛騨市はきちんと防災士の方が活躍できる機会を作り出していることが組織として良い循環に繋がっているように思える。若い世代への啓発については、現状は消防団や地域の活動を若い世代が理解していない部分もあると思う。そのため、学校教育の中に、地域としてどういうことをやっているか、あるいは消防団とは何かということを盛り込んでいくことで理解を深めてみるのも効果的かもしれない。時間がかかってもゆくゆくは地域の担い手を確保できる取組をしていきたい。

来月、学生と一緒に 1 泊 2 日で種蔵のそば祭りの手伝いをしに行くつもりだが、食事つきという条件をつけると、宿を探すのに大変苦勞し、飛騨市の宿泊面の課題を痛感した。

職員の生産効率向上について、岐阜大学でも ChatGPT を導入する動きとなっていて、例えば、大学の規則を ChatGPT に学習させ、抱えている課題について質問をすれば解決のための文章を出力する使い方が検討されている。この文章をベースに修正すればよいので、ゼロから 1 を作り出す人の手間がなくなり、効率化が図れるという狙いである。

それでは、協議事項は以上となる。司会を事務局にお返しする。

5. その他

今後のスケジュールについて説明

6. 閉会【湯之下副市長】

本日も委員の皆様には、長時間にわたって、貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

それぞれの分野のことや、生活で感じていること・実情、ご意見ご提言を多くいただいた。12 月 18 日の審議会に向けて、いただいた意見を取り入れながら来年度予算に向けての政策協議を進めていく。今後改めてご確認させていただく場面もあるかと思うが、その節はご協力賜りたい。

それでは本日の会議を終了する。